

議長記者会見録

日 時：令和3年7月13日（火） 18時05分～18時30分

場 所：議会棟3階 議会運営委員会室

議会事務局

それではただいまより、議長記者会見を始めさせていただきます。
はじめに瀬川前議長から退任の挨拶がございます。

瀬川前議長

このたび、県議会議長を退任いたしました瀬川でございます。

令和元年の5月13日に、議長の要職に就かせていただき、2年2ヶ月にわたり、議長として円滑な議会の運営に万全を期すとともに、皆様のご協力をいただきながら、県政の発展に励んでまいりました。

特に世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症は、県民の皆様の生活や経済活動に多大な影響を及ぼしている一方、県議会の運営におきましても、様々な対応を要することとなりました。

これらの対策として、マスク着用・手指消毒をはじめ、議場及び委員会室へのアクリル板の設置、議会への一般傍聴の自粛や制限、会期日程の短縮、オンラインによる議会運営委員会が可能となるような条例の改正、本会議における電子表決の実施体制の整備など、円滑に議会の運営が行えるよう様々な取組みを行ってきたところであります。

また、議会の新たな取組みといたしまして、本年の3月23日に県議会と長崎県立大学との間で包括連携協定を締結しました。議会の政策立案機能の強化と、若者の政治離れの解消や本県の将来を担う人材の育成に着手したところであります。

なお、この連携協定に基づいたはじめての事業といたしまして、本年6月7日に記念講演を行う機会をいただき、「長崎県議会の現状と課題」というテーマを、私の経験を踏まえて、約220人の学生の皆様の前でオンラインにて講演させていただきました。

また、議会の課題である「若者の政治離れ」「議員のなり手不足」「投票率の低下」という課題につきましては、令和元年度に高校生を対象とした若者議会を開催するなど、これまでも若者の政治への関心を高める取組みを議会として行ってきたところです。

しかしながら、本県には人口減少、九州新幹線西九州ルートを整備促進、特定複合観光施設（IR）の実現、離島及び過疎地域の振興など、様々な課題を抱えております。

特に九州新幹線西九州ルートを整備促進につきましては、本県の重要課題であり、本年6月23日には、与党検討委員会の山本幸三委員長が来県され、検討委員会の方針について説明いただきました。

これまで、私といたしましても、佐賀県議会との間で情報の交換等を行いながら、様々な対応を行ってまいったところでありますが、今後も引き続き、新議長をはじめ、長崎県議会が、理事者と連携しながら必要な対応を図っていただきたいと思う所存です。

これまで議長として、議会の活性化と県政の発展や課題の解消のため、皆様のご協力

とご支援をいただきながら、微力ながらも力を尽くしてまいったと振り返っているところであります。

今後は、議長としての経験を活かしながら、引き続き一議員として、県政の発展と県議会の充実に向けて、尽力してまいる所存であります。

新しい議長・副議長におかれましては、県議会の円滑な運営とさらなる活性化を託しますとともに、県政の諸課題の解決にご尽力いただくようお願いいたしまして、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。

議会事務局

続いて、松本前副議長から退任のご挨拶がございます。

松本前副議長

退任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年7月に議員の皆様のご推挙をいただきまして、副議長という要職に就かせていただきました。当時、戦後最年少という若輩で受けさせていただいた時には、いささか不安がありましたが、印象に残っていることが1年間で2つございます。

1つは、就任の翌週に地元の大村市で大きな水害が起きました。その時に印象に残っておりますのは、議長のリーダーシップのもと、議会運営委員会で災害対策の協議会を作ってくださいまして、迅速な復旧のために様々な対応をしていただいたことです。

そしてもう1つはやはり新型コロナウイルスの感染症対策でございます。毎回毎回、感染者が増える第2波、第3波、第4波を1年間で経験しました。その時に、前例の無いものに対して如何に迅速に対応するかということで、議長、副議長、議会運営委員長、議会運営副委員長の4者協議を感染状況が変わる際に、定期的に行いまして、その中で理事者と話し合いながら、具体的な対策をとっていくという取組みを、1年間チームでやらせていただきました。これまでに想定していない災害やウイルスの感染等に対して、1年間を通じて感じたことは、如何に政治が身近に県民の方々に寄り添っていて、的確に行動することが県民の皆様の生活に大きな役割を果たしており、必要なことだということを改めて認識した次第であります。これからは一議員として引き続き県政発展のために、精一杯がんばってまいりますので、これまで同様、皆様方のご協力をいただきますようよろしく申し上げます。ありがとうございました。

議会事務局

新しく議長に就任しました坂本智徳議長から挨拶がございます。

坂本新議長

このたび、多くの議員のご推挙をいただき、長崎県議会第67代議長に選出いただきました坂本智徳でございます。議長職という大役への就任にあたりましては、誠に身に余る光栄であり、その使命と職責の重さを痛感しているところでございます。

はじめに、現在、全世界で猛威を振るっております新型コロナウイルス感染症に罹患

された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、治療などに尽力されております医療従事者をはじめとする関係者の皆様に感謝申し上げます。

県議会におきましても、感染予防・拡大防止に努めるとともに、重大な影響を受けた産業を支援し、本県における社会経済活動の活性化に全力で取り組んでまいり所存です。

また、本県は、若者の転出超過による人口減少、九州新幹線西九州ルート整備促進、特定複合観光施設（IR）の実現、離島及び過疎地域の振興など、多くの課題を抱えております。

これら山積する諸課題に対し、県民の皆様は県議会に対する願いは大きなものがございいます。議会が果たさなければならない責任は、今後、益々大きくなっていくものと考えております。

様々な課題解決にあたり、今後、議会として特に取り組んでまいりたいことの1つは県議会のデジタル化でございます。

これまで、新たな取り組みとして本年4月より委員会のオンラインでの実施や本会議における電子表決の実施体制の整備を図ってきたところでありますが、今後も新型コロナウイルス終息後を見据えた取り組みを更に進めてまいり所存です。

このほか、新たな取り組みといたしましては、本年6月10日に、男女を問わず政治家を目指しやすい環境を整えるため「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の改正が公布・施行されました。

本県議会におきましては、これまで議員活動と家庭生活との両立を支援する体制づくりを行ってきたところですが、この法律改正を受けまして、今後はセクハラ・マタハラ防止のための研修会や相談窓口の設置、若い世代の政治への参画を見据えた人材の育成などに積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

また、今年3月23日に「長崎県議会と長崎県立大学との包括連携に関する協定」を締結いたしました。今後はこの協定に基づいて、学生の議会事務局でのインターンシップを通じた人材育成や、県立大学の教授による議員研修の実施など、様々な事業を行っていくことで、県立大学と連携を深めてまいりたいと考えております。

なお、これまで本県議会においては、5年に一度の国勢調査を踏まえ、県議会議員一般選挙前に特別委員会を設置し、県議会議員の定数等について検討を行ってまいりました。

今回も令和5年4月に行われます県議会議員一般選挙に向けて、令和2年度の国勢調査の結果をもとに、本日、「県議会議員定数等調査特別委員会」を設置し、県議会議員の定数、選挙区等について、検討を行っていくこととしております。

このような様々な取り組みにつきまして、今後とも各議員をはじめとした皆様方のご協力を賜りながら、議会が一丸となって課題解決に取り組む、二元代表制の一翼を担う県議会がその役割と責務を果たすことができるよう、微力ではありますが、これまで瀬川前議長が行って来た改革の取り組みを継承しながら、これまで培った経験を活かし、公正かつ円滑な議会運営に精一杯努めてまいり所存でありますので、皆様のなご指導、ご支援をお願い申し上げます。簡単ではございますが、議長就任のご挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

議会事務局

続きまして、新しく副議長に就任しました山口初實副議長からご挨拶がございます。

山口新副議長

お疲れ様です。県議会副議長に選任いただきました山口初實でございます。副議長就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

このたび、副議長という要職を仰せつかり、誠に光栄に存じますとともに、責任の重さに身が引き締まる思いです。

本県は現在、長引く新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた、ワクチン接種やコロナ禍で落ち込んでいる県内経済の回復・拡大に向けた課題への対策のほか、従来からの課題であります人口減少、少子高齢化など、数多くの課題を抱えています。

これらの課題解決に向け、県議会が十分にその役割を果たせるよう、坂本議長を補佐し、円滑な議会運営に努めたいと考えておりますので、皆様のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、副議長就任のご挨拶とさせていただきます。今後ともよろしく申し上げます。

読売新聞社

今回、新しく議長へ就任されましたが、県民の皆様に「どういった点をみて欲しいか」などがあればよろしく申し上げます。

坂本新議長

先ほどもご挨拶で申し上げましたとおり、今年の3月に県立大学との包括連携協定を締結しましたが、今後はこの協定に基づき、学生の議会事務局でのインターンシップを通じた人材育成や、県立大学の教授による議員研修の実施など、様々な事業を行っていくことで、県立大学と連携を深めてまいりたいと考えております。

また、5年に一度の国勢調査を踏まえ、県議会議員一般選挙前に特別委員会を設置し、県議会議員の定数等について検討をこれから行ってまいります。

共同通信社

新幹線の整備促進について、現在佐賀県との整理がついていない状況だと思うのですが、今後どのように取組まれたいと考えていますか。

坂本新議長

6月23日の山本委員長の説明では、フル規格での整備を進めていくという方針と佐賀県の財政負担の軽減、並行在来線のあり方などについて説明を受けたところです。

新幹線は全国と繋がってはじめて、新幹線としての効果が発揮できるものであることから、全線フル規格での整備実現を期待しています。県議会としても、並行在来線や財政負担などの課題解決について、積極的に取組むとともに、佐賀県議会との間で情報交

換等を行いながら、瀬川前議長からご指導をいただき、進めていきたいと思っております。理事者とも連携して必要な対応を図っていきたいと考えているところでございます。

長崎新聞社

瀬川前議長にお尋ねですが、2年間を振り返って様々なことがあったと思いますが、特に印象に残ったことがあれば教えてください。

瀬川前議長

この2年間、新幹線のことについて、佐賀の故桃崎議長とフル規格に向けた協議を不定期にやってまいりました。今、フル規格についての佐賀県の認識が、行政側の考えと議会側の考えの違いを、段々と理解できてきたところでありまして、やはり山本委員長が先般、佐賀県にいられて提案をされたことについて、佐賀県として正式に受け入れられない旨の発言をされたというふうに理解をしているわけですが、やはり佐賀県民にとって、あるいは西九州全域にとって、高速ネットワークに繋ぐことの大切さを考えていただき、どうやれば解決していくかということを考えますと、やはり県議会同士がきちんと協議・議論をし、理解を深めていくことが大事だと思っております、引き続き、そこは新議長にやっていただきたいと思っております。

十数年前まで、両県議会が議会事務局も含めて、両県にとっての課題について協議する場を持っておりました。ある時にその場が無くなってしまったわけですが、その場の復活に向けて、今の新議長とも話をしたところでありまして、私の方でも佐賀の藤木議長に対して、同様の提案をしたところです。今後そこを具現化していただくために、後任の坂本議長に尽力をしていただきたいと思っております、一番印象に残っている点でいえばそういうところだと思います。

NHK

コロナ禍の中で、将来だったり、長崎県がこれからどうなるかなど、色々と不安を抱えている県民が多いと思いますが、県民にどう向き合っていくか、お聞かせ願えればと思います。

坂本新議長

常に県民の側に立って、皆さん方のお話を聴いて、気持ちや心を整理しながら、自分なりに受け取って、一緒に豊かな長崎県にしていきたいと思っております。

議会事務局

他に質問が無いようですので、これをもちまして議長記者会見を終了します。ありがとうございました。